

痛みを表す日本語のオノマトペの選択に関する一考察 —日本語話者と中国人日本語学習者の比較—

杉村 泰

DOI: 10.18999/stul.34.25

1. はじめに

日本語には「ビリビリ」、「ジンジン」、「チクチク」のように痛みを表すオノマトペがたくさんある。これによって痛みの程度や様子、部位などを表し分けることができ、医療現場でも役に立っている。しかし、日本語学習者は上級になってもこれらのオノマトペの理解や使用を困難に感じている。そこで本稿では学習者のオノマトペ選択に関する基礎研究として、アンケートによる四者択一テストを利用して、日本語話者と中国語話者における痛みを表すオノマトペの選択の違いについて考察する。

2. 先行研究

小野(2007)は日本語のオノマトペの意味について詳しく記述し、吉永(2016)は心身の状況を表す擬態語動詞の文法的特徴について論じている。これらの先行研究を受け、杉村(2017, 2018a, 2018b, 2019a, 2019b)では、国立国語研究所の現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)を利用して、「ヒリヒリ」、「チクチク」、「ジンジン」など日本語の痛みを表すオノマトペの用法と意味拡張について考察した。その際、同じ痛みを表すオノマトペの中にも、中国人日本語学習者にとって習得の易しいものと難しいものがありそうであることを見た。これを受け、本稿では具体的にどのオノマトペが習得しやすく、どのオノマトペが習得しにくいのかを見ていきたい。

3. 調査1(日本語話者への予備調査)

本稿ではまず、予備調査として日本語話者 130 人を対象にオノマトペの選択テストを行った。被験者は次のとおりである。

[被験者]

・日本語話者 130 人

愛知淑徳大学、名古屋大学の学生(2019 年 10 月 5 日～11 月 22 日に実施)

この 130 人に対し、以下の形式で 20 問のアンケートを行った。各設問は「二日酔いで頭が()する。」のように「何かの原因で 身体部位が (オノマトペ)する」という構造になっている。これにより、特定の痛みの原因と身体部位の組み合わせの場合に、日本語話者がどのようなオノマトペを選択する傾向にあるかを調べた。今回は被験者が回答しやすいように与えられた 19 語から選択する形式をとった。選択肢の 19 語は筆者の直感で 20 問の設問の答えになりそうなものを選んだ。

[アンケート]

問 次の()の中に入る最も適切な語を□の中から1つ選んで入れてください。同じ語を選んでも構いません。

ガクガク、カサカサ、ガタガタ、ガンガン、キリキリ、コリコリ、シクシク、ジンジン、ズキズキ、チクチク、ドキドキ、バクバク、ヒリヒリ、ビリビリ、ピリピリ、ミシミシ、ムズムズ、キュンと、ツーンと
--

1. 二日酔いで頭が()する。
 2. 片頭痛で頭が()する。
- : (略)
20. 乾燥して肌が()する。

これを集計し、各設問において選択されたオノマトペと人数および選択率を次に示す。

<p>1. 二日酔いで頭が()する ①ガンガン 96 人(73.8%)、②ズキズキ 29 人(22.3%)、③ジンジン 5 人(3.8%)</p>
<p>2. 片頭痛で頭が()する。 ①ズキズキ 84 人(64.6%)、②ガンガン 32 人(24.6%)、③ジンジン 10 人(7.7%)、 ④キリキリ 3 人(2.3%)、⑤ピリピリ 1 人(0.8%)</p>
<p>3. 睫毛が入って目が()する。 ①チクチク 93 人(71.5%)、②ムズムズ 13 人(10.0%)、③ズキズキ 6 人(4.6%)、 ④ヒリヒリ 5 人(3.8%)、⑤ピリピリ 4 人(3.1%)、⑥シクシク 3 人(2.3%)、 ⑦ジンジン 2 人(1.5%)、⑧カサカサ 1 人(0.8%)、⑨キリキリ 1 人(0.8%)、 ⑩コリコリ 1 人(0.8%)、⑪ツーン 1 人(0.8%)</p>
<p>4. 酸っぱい臭いで鼻が()する。 ①ツーンと 116 人(89.2%)、②ムズムズ 7 人(5.4%)、③ピリピリ 3 人(2.3%)、 ④ジンジン 2 人(1.5%)、⑤ズキズキ 1 人(0.8%)、⑥ヒリヒリ 1 人(0.8%)</p>
<p>5. 花粉症で鼻が()する。 ①ムズムズ 127 人(97.7%)、②シクシク 1 人(0.8%)、③ツーンと 1 人(0.8%)、 ④ヒリヒリ 1 人(0.8%)</p>
<p>6. 唐辛子を食べると口の中が()する。 ①ヒリヒリ 101 人(77.7%)、②ピリピリ 24 人(18.5%)、③ジンジン 3 人(2.3%)、 ④ツーンと 1 人(0.8%)、⑤ビリビリ 1 人(0.8%)</p>
<p>7. 虫歯で歯が()する。 ①ズキズキ 96 人(73.8%)、②ジンジン 18 人(13.8%)、③チクチク 6 人(4.6%)、 ④ガタガタ 3 人(2.3%)、⑤キリキリ 3 人(2.3%)、⑥シクシク 2 人(1.5%)、 ⑦ガンガン 1 人(0.8%)、⑧キュンと 1 人(0.8%)</p>
<p>8. 気圧の変化で耳が()する。 ①ツーンと 44 人(33.8%)、②キリキリ 20 人(15.4%)、③ジンジン 13 人(10.0%)、 ④ガンガン 11 人(8.5%)、⑤ズキズキ 11 人(8.5%)、⑥キュンと 8 人(6.2%)、 ⑦ミシミシ 7 人(5.4%)、⑧ビリビリ 4 人(3.1%)、⑨ピリピリ 4 人(3.1%)、 ⑩ムズムズ 2 人(1.5%)、⑪コリコリ 1 人(0.8%)、⑫バクバク 1 人(0.8%)、 ⑬ビリビリ 1 人(0.8%)、⑭? 3 人(2.3%)</p>

<p>9. 肩こりで肩が()する。</p> <p>①コリコリ 56 人(43.1%)、②ズキズキ 23 人(17.7%)、③ジンジン 18 人(13.8%)、 ④ミシミシ 15 人(11.5%)、⑤ガクガク 5 人(3.8%)、⑥ビリビリ 4 人(3.1%)、 ⑦ガンガン 3 人(2.3%)、⑧ピリピリ 3 人(2.3%)、⑨ガタガタ 1 人(0.8%)、 ⑩キリキリ 1 人(0.8%)、⑪ムズムズ 1 人(0.8%)</p>
<p>10. 感電して手が()する。</p> <p>①ビリビリ 104 人(80.0%)、②ピリピリ 14 人(10.8%)、③ヒリヒリ 6 人(4.6%)、 ④ジンジン 4 人(3.1%)、⑤カサカサ 1 人(0.8%)、⑥ガタガタ 1 人(0.8%)</p>
<p>11. 好きな人を見て心臓が()する。</p> <p>①ドキドキ 71 人(54.6%)、②キュンと 43 人(33.1%)、③バクバク 15 人(11.5%)、 ④チクチク 1 人(0.8%)</p>
<p>12. 急な坂道を登って心臓が()する。</p> <p>①バクバク 119 人(91.5%)、②ドキドキ 9 人(6.9%)、③ガクガク 1 人(0.8%)、 ④キリキリ 1 人(0.8%)</p>
<p>13. 心臓が針で刺されたように()する。</p> <p>①チクチク 91 人(70.0%)、②ズキズキ 24 人(18.5%)、③キュンと 5 人(3.8%)、 ④キリキリ 3 人(2.3%)、⑤ドキドキ 2 人(1.5%)、⑥キリキリ 1 人(0.8%)、 ⑦ジンジン 1 人(0.8%)、⑧ツーンと 1 人(0.8%)、⑨ヒリヒリ 1 人(0.8%)、 ⑩ピリピリ 1 人(0.8%)</p>
<p>14. 心臓が締め付けられて()する。</p> <p>①キュンと 48 人(36.9%)、②ズキズキ 32 人(24.6%)、③ドキドキ 20 人(15.4%)、 ④バクバク 10 人(7.7%)、⑤キリキリ 8 人(6.2%)、⑥ジンジン 5 人(3.8%)、 ⑦チクチク 3 人(2.3%)、⑧キンキン 1 人(0.8%)、⑨ビリビリ 1 人(0.8%)、 ⑩ピリピリ 1 人(0.8%)、⑪ミシミシ 1 人(0.8%)</p>
<p>15. ストレスで胃が()する。</p> <p>①キリキリ 93 人(71.5%)、②ズキズキ 8 人(6.2%)、③ヒリヒリ 5 人(3.8%)、 ④ピリピリ 5 人(3.8%)、⑤ムズムズ 5 人(3.8%)、⑥シクシク 4 人(3.1%)、 ⑦ジンジン 3 人(2.3%)、⑧チクチク 3 人(2.3%)、⑨キュンと 2 人(1.5%)、 ⑩ガクガク 1 人(0.8%)、⑪ジンジン 1 人(0.8%)</p>

<p>16. 慢性胃炎で胃が()する。</p> <p>①キリキリ 61 人(46.9%)、②ズキズキ 18 人(13.8%)、③ジンジン 11 人(8.5%)、 ④シクシク 10 人(7.7%)、⑤チクチク 10 人(7.7%)、⑥ヒリヒリ 10 人(7.7%) ⑦ピリピリ 4 人(3.1%)、⑧ムズムズ 3 人(2.3%)、⑨ガンガン 1 人(0.8%)、 ⑩ガンガン 1 人(0.8%)、⑪ツーンと 1 人(0.8%)</p>
<p>17. 山登りで膝が()する。</p> <p>①ガクガク 114 人(87.7%)、②ガタガタ 6 人(4.6%)、③ジンジン 4 人(3.1%)、 ④ミシミシ 4 人(3.1%)、⑤ズキズキ 2 人(1.5%)</p>
<p>18. 痺れて足が()する。</p> <p>①ジンジン 49 人(37.7%)、②ビリビリ 36 人(27.7%)、③ピリピリ 24 人(18.5%)、 ④ガクガク 13 人(10.0%)、⑤ヒリヒリ 5 人(3.8%)、⑥ガタガタ 2 人(1.5%)、 ⑦ズキズキ 1 人(0.8%)</p>
<p>19. 火傷で肌が()する。</p> <p>①ヒリヒリ 101 人(77.7%)、②ジンジン 17 人(13.1%)、③ズキズキ 6 人(4.6%)、 ④ピリピリ 5 人(3.8%)、⑤ビリビリ 1 人(0.8%)</p>
<p>20. 乾燥して肌が()する。</p> <p>①カサカサ 93 人(71.5%)、②ヒリヒリ 24 人(18.5%)、③ピリピリ 9 人(6.9%)、 ④ミシミシ 2 人(1.5%)、⑤ジンジン 1 人(0.8%)、⑥チクチク 1 人(0.8%)</p>

4. 調査2(日・中語話者への四者択一テスト)

次に、調査1の結果をもとに調査2の四者択一テストを作成した。これは「二日酔いで頭が(ガンガン、キリキリ、ジンジン、ズキズキ)する。」のようなもので、被験者に4つの選択肢の中から最も適当なものを1つ選んでもらうテストである。最初は「二日酔いで頭が()する。」のように選択肢無し穴埋めテストを実施したが、中国語話者にはほとんどの設問で回答不能であった。次に先の 19 語から選択してもらおうとしたが、それでも中国語話者には難しかった。そのため、答えやすいように四者択一テストにした。これを日本語話者と中国語話者(日本語学習者)に実施した。被験者は次のとおりである。

〔被験者〕

- ・日本語話者 100 人
愛知淑徳大学、名古屋大学の学生(2020 年 1 月 7 日～6 月 21 日に実施)
- ・中国語話者(N1合格レベル) 34 人
愛知淑徳大学、名古屋大学の学生(2019 年 11 月 28 日～2020 年 7 月 22 日に実施)
- ・中国語話者(N1未合格レベル・ただし初級は終わっている) 42 人
海南師範大学、上海師範大学、愛知淑徳大学、名古屋大学の学生(2019 年 11 月 28 日～2020 年 7 月 22 日に実施)

これらの被験者に対し、以下の要領で 20 問のアンケートを行った。その際、中国語話者には「二日酔い(宿酔)」のように一部の単語に中国語訳を付けた(日本人には付けなかった)。選択肢の4語は調査1における各設問の選択率上位4語を選んだ。そのため、中国語話者の場合は実際の選択意識ではなく、日本語話者の選択しやすいオノマトペを与えられた場合に、その中から日本語話者のように選べるかどうかを見たものということになる。

なお、20 問のうち設問1, 6, 7, 8, 15, 16 の6問は、調査1で第4位がなかったり、第4位が複数あったりしたため、次のようにして4語目を選んだ。

- ・設問1: 調査1で3語しか選択されなかったため、4語目として同じ頭の痛みを表す設問2と同じ選択肢になるように「キリキリ」を加えた。
- ・設問6: 第4位に「ツーンと」と「ビリビリ」が並んでいるが、設問4の「ツーンと」と比較したかったため「ツーンと」を選んだ。
- ・設問7: 第4位に「ガタガタ」と「キリキリ」が並んでいるが、「ガタガタ」は痛みではなく葉のぐらつきを表すため、「キリキリ」を選んだ。
- ・設問8: 第4位に「ガンガン」と「ズキズキ」が並んでいるが、調査1の後に複数の被験者から 19 語の選択肢の中にない「キーンと」の方がよいという指摘を受けた。そこで「ガンガン」と「ズキズキ」の代わりに「キーンと」を入れた。
- ・設問 15: 第3位に「ヒリヒリ」、「ピリピリ」、「ムズムズ」が並んでいるが、形の似ている「ヒリヒリ」と「ピリピリ」の違いを見ようと思ってこれを選んだ。
- ・設問 16: 第4位に「シクシク」と「チクチク」が並んでいるが、「シクシク」の可能性を見たかったため、「シクシク」を選んだ。

このようにして、次の四者択一テストを作成し、上の被験者に実施して、3つの被験者グループごとに4語の選択率を集計した。4語の順番は五十音順とした¹。

[アンケート]

問 次の()の中に入る最も適当な擬態語を1つ選んで○で囲んでください。

1. 二日酔い(宿酔)で頭が(ガンガン、キリキリ、ジンジン、ズキズキ)する。
2. 片頭痛(偏頭痛)で頭が(ガンガン、キリキリ、ジンジン、ズキズキ)する。
3. 睫毛が入って目が(ズキズキ、チクチク、ヒリヒリ、ムズムズ)する。
4. 酸っぱい臭い(酸味)で鼻が(ジンジン、ツーンと、ピリピリ、ムズムズ)する。
5. 花粉症で鼻が(シクシク、ツーンと、ヒリヒリ、ムズムズ)する。
6. 唐辛子(辣椒)を食べて口の中が(ジンジン、ツーンと、ヒリヒリ、ピリピリ)する。
7. 虫歯(蛀牙)で歯が(キリキリ、ズキズキ、ジンジン、チクチク)する。
8. 気圧の変化で耳が(キーンと、キリキリ、ジンジン、ツーンと)する。
9. 肩こり(肩酸)で肩が(コリコリ、ズキズキ、ジンジン、ミシミシ)する。
10. 感電(触电)して手が(ジンジン、ヒリヒリ、ビリビリ、ピリピリ)する。
11. 好きな人を見て心臓が(キュンと、チクチク、ドキドキ、バクバク)する。
12. 急な坂道(陡坡)を登って心臓が(ガクガク、キリキリ、ドキドキ、バクバク)する。
13. 心臓が針で刺されたように(キリキリ、キュンと、ズキズキ、チクチク)する。
14. 心臓が締め付けられて(心被揪得)(キュンと、ズキズキ、ドキドキ、バクバク)する。
15. ストレス(圧力)で胃が(キリキリ、ズキズキ、ヒリヒリ、ピリピリ)する。
16. 慢性胃炎で胃が(キリキリ、ズキズキ、シクシク、ジンジン)する。
17. 山登りで膝が(ガクガク、ガタガタ、ジンジン、ミシミシ)する。
18. 痺れて(麻木)足が(ガクガク、ジンジン、ビリビリ、ピリピリ)する。
19. 火傷(烧伤)で肌が(ジンジン、ズキズキ、ヒリヒリ、ピリピリ)する。
20. 乾燥して肌が(カサカサ、ヒリヒリ、ピリピリ、ミシミシ)する。

¹ 設問 16 はアンケートの作成時に順番を誤ったため、五十音順になっていない。

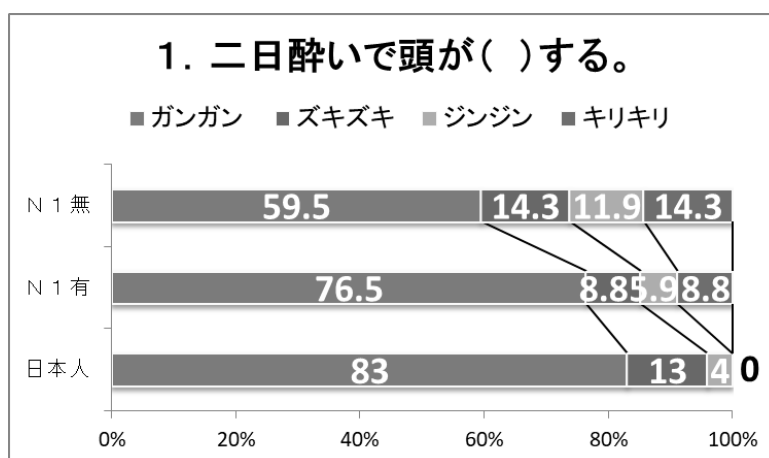
5. 調査2の結果

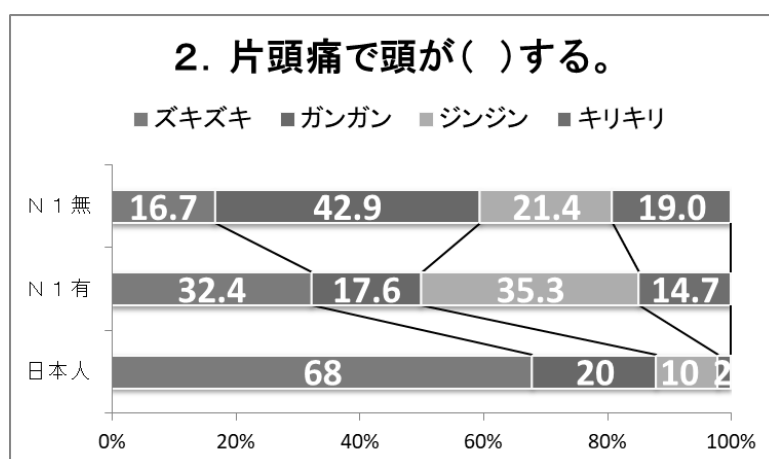
本節では調査2の結果について考察する。以下のグラフ1～20 は、日本語話者(日本人)、日本語能力試験N1に合格した中国人日本語学習者(N1有)、N1未合格の中国語話者(N1無)の選択率を比較したものである。これを見ると、全体的にN1無よりもN1有の方が日本語話者の選択率に近くなっている。このことから、日本語の習得レベルが上がればオノマトペの選択も日本語話者に近づくことが分かる。

ただし、グラフ 11 の「好きな人を見て心臓がドキドキする」、グラフ 18 の「痺れて足がジンジン／ビリビリする」、グラフ 20 の「乾燥して肌がカサカサする」はN1無でも日本人に近い選択率となっている。これはオノマトペの音韻的感覚が中国人学習者に馴染むためかもしれないし、日本の漫画やアニメ、テレビ番組や広告などを見聞きして知っていたためかもしれない。その理由については今後調査が必要である。以下、痛みの部位ごとにオノマトペの選択結果を見ていく。

頭の場合

グラフ1とグラフ2を比較すると、同じ頭の痛みでも、日本人は二日酔いで頭が割れるように痛む場合には「ガンガン」を使い、片頭痛でこめかみが脈打つように痛む場合には「ズキズキ」を使いやすいという違いが見られる。しかし、N1無の場合にはどちらも「ガンガン」の選択率が一番高くなっている。これがN1有になると、二日酔いの場合には「ガンガン」、片頭痛の場合には「ズキズキ」という使い分けがある程度できてくる。



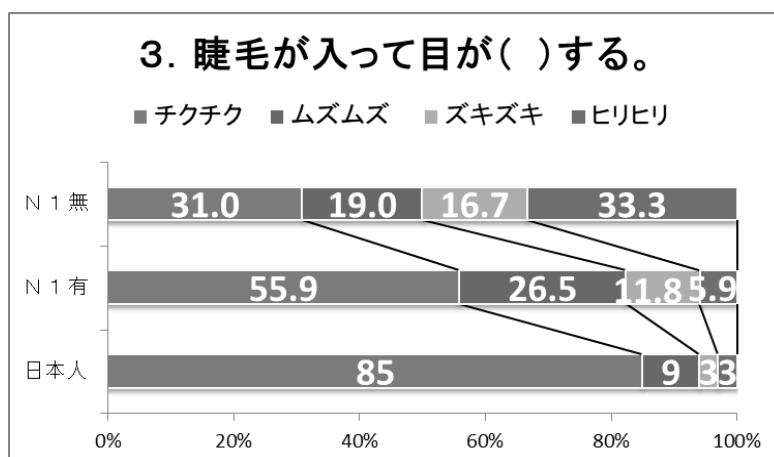


ここで注目したいのは、二日酔いの頭痛で「ガンガン」を選択した人は、N1無で 59.5%、N1有では 76.5%もいるのに対し、片頭痛で「ズキズキ」を選択した人は、N1無で 16.7%、N1有でも 32.4%しかないという点である。一方で、片頭痛の場合に「ジンジン」を選択した人は、N1無で 21.4%、N1有で 35.3%と増えている。このことから、学習者は習得レベルが上がると片頭痛に「ガンガン」は使いにくいという感覚は付いてくるが、「ズキズキ」と「ジンジン」の区別が難しいと考えられる。

目の場合

グラフ3を見ると、日本人は睫毛が目に入った痛みについて、針で突いた痛みを表す「チクチク」を選択する人が 85.0%と多い。「ムズムズ」でも間違いではないが、その場合はゴミが目に入ってむず痒くなるイメージとなる。「ズキズキ」や「ヒリヒリ」はそれぞれ3%選択されているが、筆者には違和感がある。

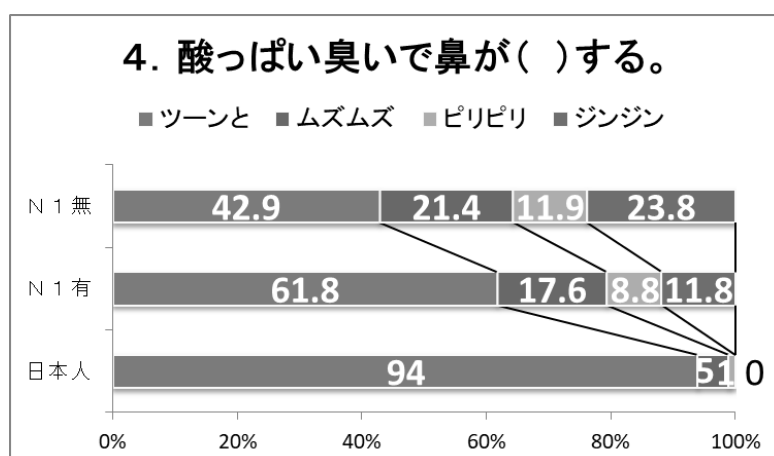
ここで学習者の選択率を見ると、「チクチク」はN1無では 31.0%しかないが、N1有では 55.9%に増えている。後のグラフ 13 の「心臓が針で刺されたような痛み」の場合も、「チクチク」の選択率がN1無では 14.3%しかないが、N1有では 38.2%に増えており、「チクチク」は習得レベルが上がるとにつれて身に付いていくようである。また、N1有では「むずむず」の選択率が2位の 26.5%となっており、「チクチク」以外の3つの中で一番高くなっている。一方で、N1無で 33.3%あった「ヒリヒリ」がN1有では 5.9%しかない。このことから、学習者も習得レベルが上がれば、睫毛が目に入った場合に「チクチク」が一番ふさわしく、次いで「ムズムズ」がよいという感覚が身に付いていくことが窺われる。



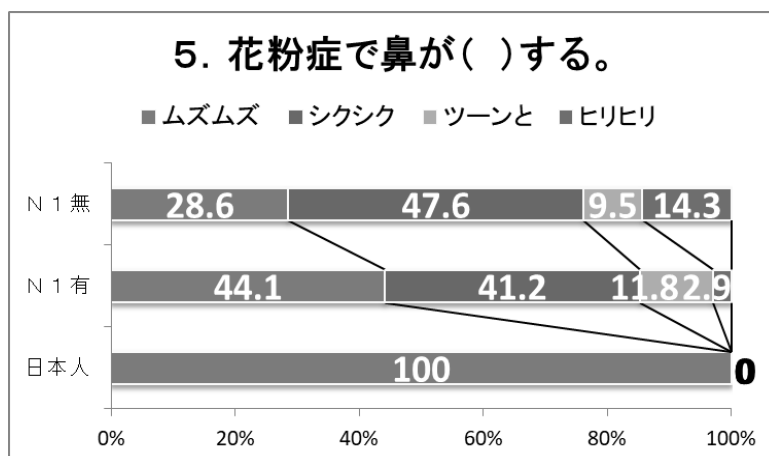
鼻の場合

グラフ4とグラフ5を比較すると、同じ鼻の刺激でも、日本人は酸味が鼻をつく場合には「ツーンと」を選択する人が 94.0%、花粉症で鼻がむず痒い場合には「ムズムズ」を選択する人が 100%という違いが見られる。いずれの場合も、学習者は習得レベルが上がると、日本人の「ツーンと」や「ムズムズ」の選択率に近づいていく。

ここでグラフ4を見ると、N1有は「ツーンと」の次に「ムズムズ」を選択している。この場合、日本人はあまり「ムズムズ」とは言わないが、鼻がむず痒い時に「鼻がムズムズする」という言い方をする。学習者も少なくとも「ムズムズ」が鼻の刺激を表すのに使われるという感覚は持っているようである。



次にグラフ5を見ると、N1無もN1有も 40%以上の人が「シクシク」を選択している。日本語では「お腹(胃)がシクシクする」とは言っても、「鼻がシクシクする」とは言わない。なぜ被験者が「シクシク」を選択したのかはよく分からない。しかし、同じ鼻の刺激に関するオノマトペでも、鼻のむず痒さに「ツーンと」は使いにくいという感覚は持っているようである。

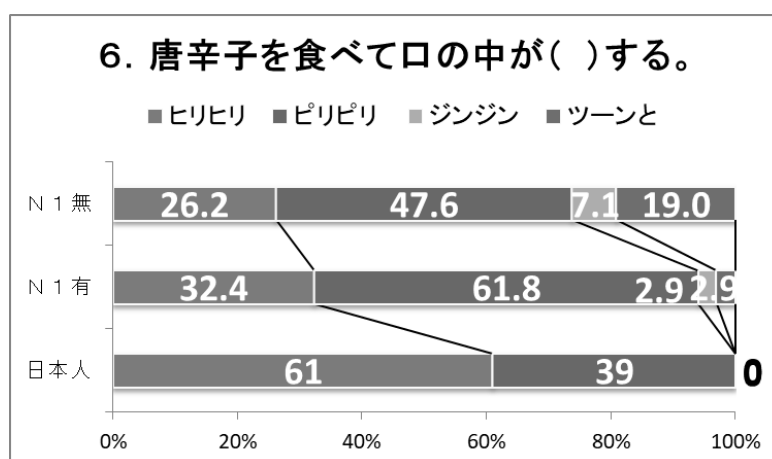


口の場合

グラフ6を見ると、日本人は唐辛子を食べた時の口の痛みについて、「ヒリヒリ」を選択する人が約6割、「ピリピリ」を選択する人が約4割となっている。

ここで学習者の選択率を見ると、N1無よりもN1有の方が「ヒリヒリ」の選択率が上がっているが、「ピリピリ」の選択率も上がっている。N1無もN1有も日本人とは逆に「ヒリヒリ」より「ピリピリ」の選択率の方が高くなっているが、「ヒリヒリ」か「ピリピリ」が選択されやすいという点では日本人と似た感覚を持っている。

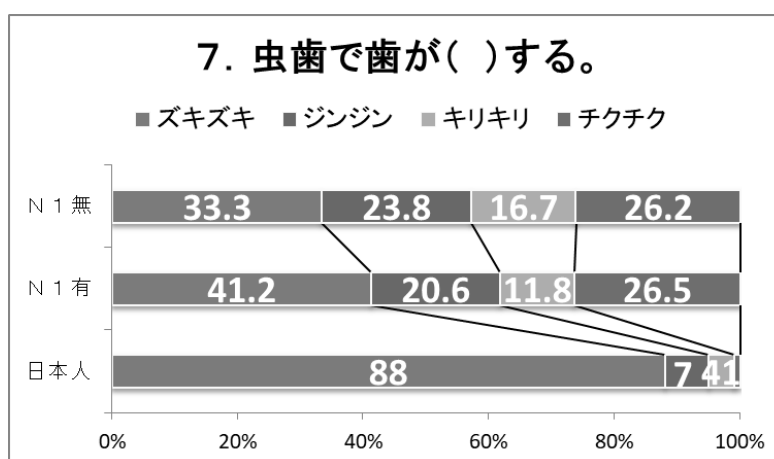
また、N1無では「ツーンと」の選択率が 19.0%あるが、N1有では 2.9%しかない。グラフ4で見たように、「ツーンと」は酸味などが鼻をつく刺激臭を表し、N1無レベルでも4割ぐらいの人が選択している。唐辛子の辛味も酸味と同様に化学物質による刺激を表すため、N1無は両者を共感的に捉えて「ツーンと」を選んだ可能性がある。しかし、N1有になると唐辛子の刺激に「ツーンと」は使いにくいという感覚が身に付いてくるようである。



歯の場合

グラフ7を見ると、日本人は虫歯の痛みについて、「ズキズキ」を選択する人が 88.0%と多い。

ここで学習者の選択率を見ると、N1無よりもN1有の方が「ズキズキ」の選択率が上がっているが、他の「ジンジン」、「キリキリ」、「チクチク」もそれなりに選択されている。このことから中国語話者にとって「虫歯で歯がズキズキする」という表現は捉えにくいと考えられる。

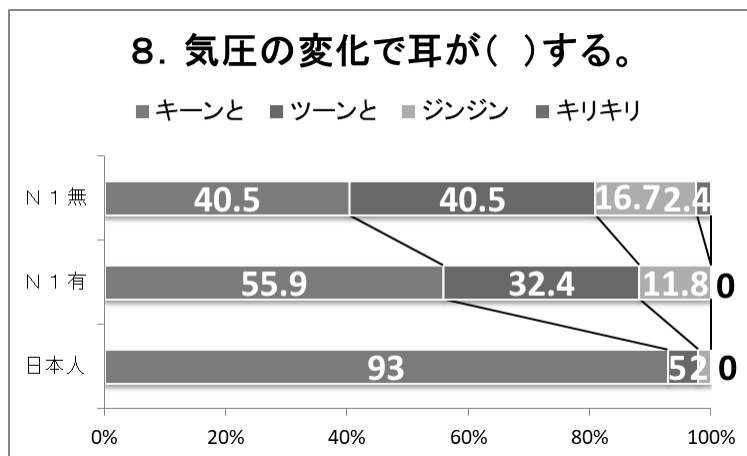


耳の場合

グラフ8を見ると、日本人は気圧の変化による耳鳴りについて、「キーンと」を選択する人が 93.0%と多い。

ここで学習者の選択率を見ると、N1無よりもN1有の方が「キーンと」の選択率が上がっているが、「ツーンと」も 32.4%選択されている。「キーンと」も「ツーンと」も同じ「〇ーンと」とい

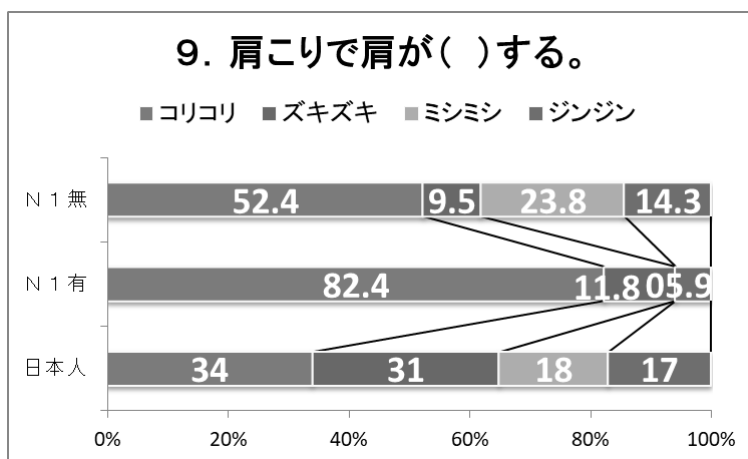
う音であり、似たイメージで捉えられていると考えられる。一方、「ジンジン」と「キリキリ」はN1無に比べてN1有の方がの選択率が下がるため、耳鳴りを表すのにはそぐわないという感覚は身に付くようである。



肩の場合

グラフ9を見ると、日本人は肩こりの痛みについて、「コリコリ」を選択する人が 34.0%で一番多い。しかし、他の「ズキズキ」、「ミシミシ」、「ジンジン」もそれなりに選択されており、肩こりの痛みは必ずしも決まった言い方がないことが分かる。

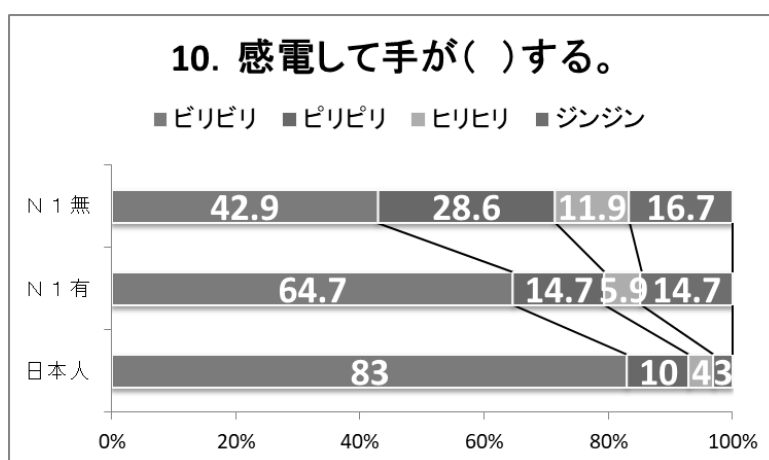
ここで学習者の選択率を見ると、N1無は「コリコリ」が 52.4%、N1有は「コリコリ」が 82.4%もある。これはどれがよいかよく分からず、「肩こり」の「こり」の音が入ったものを選択したためであると考えられる。アンケートの後に何人かの被験者に聞いたところ、日本人も学習者もこの問題が一番よく分からなかったとのことであった。



手の場合

グラフ 10 を見ると、日本人は感電した時の手の痛みについて、「ビリビリ」を選択する人が 83.0%と多い。グラフ 18 の足の痺れと違い、「ジンジン」は使いにくいようである。

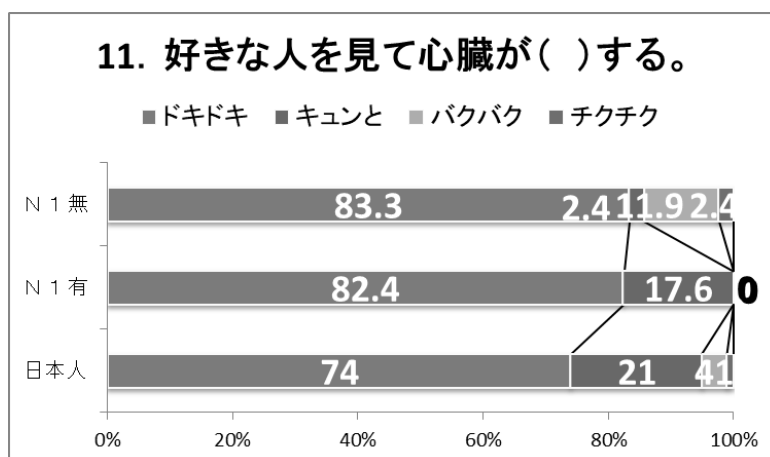
ここで学習者の選択率を見ると、N1無よりもN1有の方が「ビリビリ」の選択率が上がり、形の似ている「ピリピリ」の選択率は下がっている。このことから「感電して手がビリビリする」という表現は習得しやすいと考えられる。



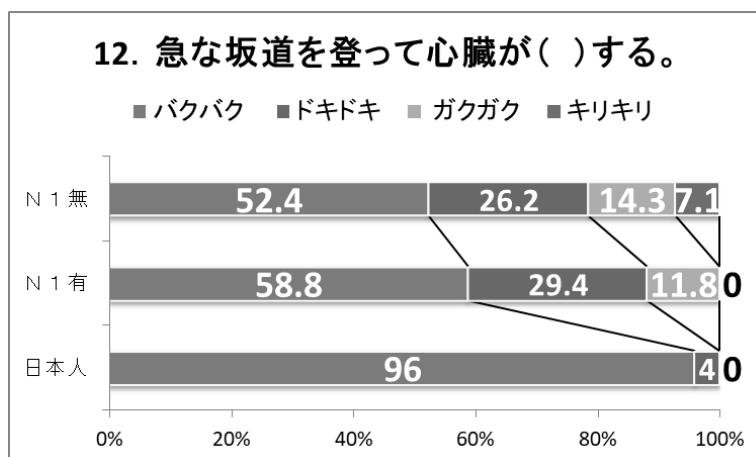
心臓の場合

グラフ 11 からグラフ 14 を比較すると、同じ心臓の痛みでも、日本人は好きな人を見た場合には「ドキドキ」または「キュンと」を使い、坂道を登った場合には「バクバク」を使い、針で刺されたような痛みには「チクチク」を使いやすく、締め付けられたような痛みには「ズキズキ」または「キュンと」を使うという違いが見られる。ここで学習者の選択率を見ると、痛みの原因によって日本人の選択率に近いものもあれば、そうでないものもある。

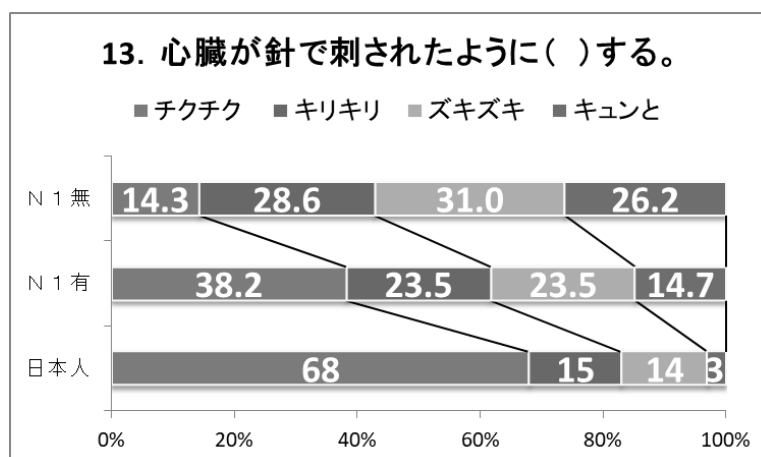
まず、グラフ 11 のように精神的な高揚によって心臓の鼓動が高鳴る場合、N1無もN1有も日本人も、8割前後の人が「ドキドキ」を選択している。何人かの学習者に聞いたところ、「ドキドキ」は日本のテレビや漫画で見て知っていたとのことであった。ここで興味深いのは、「キュンと」がN1無では 2.4%しかないのに、N1有は 17.6%、日本人は 21.0%が選択している点である。「キュンと」は後のグラフ 14 のように肉体的に心臓が締め付けられる時の他、この例のように精神的に心臓が締め付けられる場合にも使われる。習得レベルが上がると、この「キュンと」が使えるようになるようである。



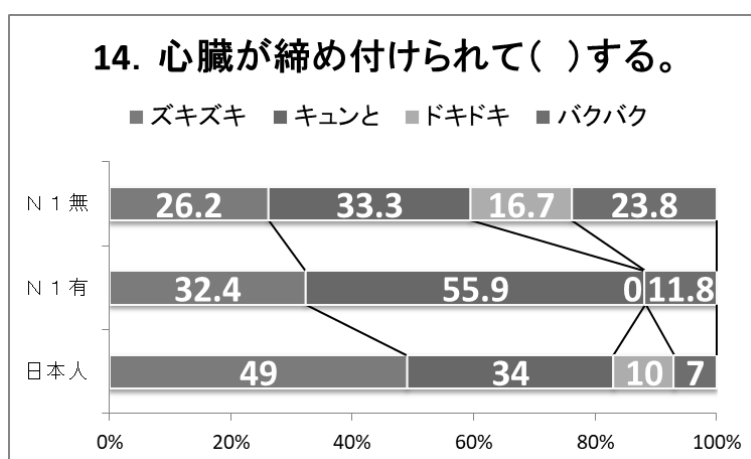
一方、グラフ 12 のように心臓に激しい動悸を感じる場合、日本人は「バクバク」を選択する人が 96.0%と多い。この場合、学習者も「バクバク」の選択率が最も高く、習得レベルが上がると選択率も 52.4%から 58.8%へと上がっている。ただし、「ドキドキ」を選択する人もN1無で 26.2%、N1有で 29.4%いる。これは学習者にとって心臓音に関するオノマトペといえは「ドキドキ」のイメージが強いためであると考えられる。



次に、グラフ 13 のように心臓を針で刺すような痛みの場合、日本人は「チクチク」を選択する人が 68.0%と多い。一方、N1無では「チクチク」の選択率が 14.3%と低いが、N1有では 38.2%と高くなる。これはグラフ 3 の睫毛が目には刺さる場合と似ている。「チクチク」が針で刺されたような痛みに使われることは、習得レベルが低い段階ではイメージしにくいものの習得レベルが上がるとイメージしやすくなると考えられる。



次に、グラフ 14 のように心臓が締め付けられるような痛みの場合、日本人は「ズキズキ」が 49.0%、「キュンと」が 34.0%で、この2つで8割以上を占めている。ここで連続した痛みを連想した人は「ズキズキ」を選択し、瞬間的な痛みを連想した人は「キュンと」を選択したものである。この場合、学習者は「ズキズキ」の選択率がN1無で 26.2%、N1有で 32.4%と高くなっている。また、N1有では「キュンと」の選択率が高くなる一方で、「ドキドキ」や「バクバク」の選択率は低くなっている。このことから、習得レベルが上がると、同じ心臓の痛みを表すオノマトペでも、心臓が締め付けられるような痛みの場合には「ズキズキ」や「キュンと」がふさわしく、「ドキドキ」や「バクバク」はふさわしくないという感覚が身に付いていくことが窺われる。

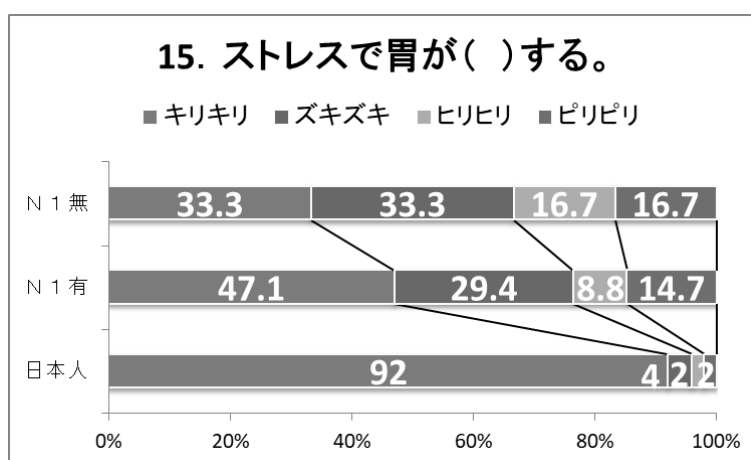


胃の場合

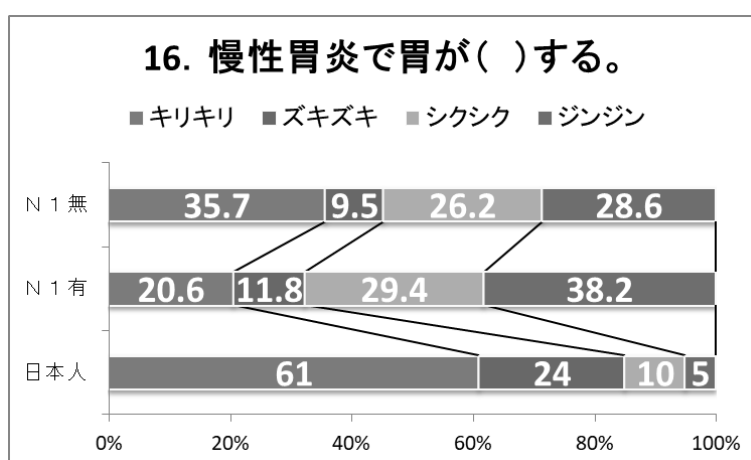
グラフ 15 とグラフ 16 を比較すると、同じ胃の痛みでも、日本人はストレスによる場合は「キ

「キリキリ」の選択率が 92.0%と1つに集中しているが、慢性胃炎の場合は「キリキリ」が 61.0%、「ズキズキ」が 24.0%、「シクシク」が 10.0%というように1つに集中していない。

まず、グラフ 1 のようにストレスによる胃の痛みの場合、学習者も「キリキリ」の選択率が最も高く、習得レベルが上がると選択率も 33.3%から 47.1%へと上がっている。ただし、「ズキズキ」を選択する人も N1 無で 33.3%、N1 有で 29.4%いる。このことから、学習者にはストレスによる胃の痛みを表すのに「ズキズキ」もイメージされやすいと考えられる。

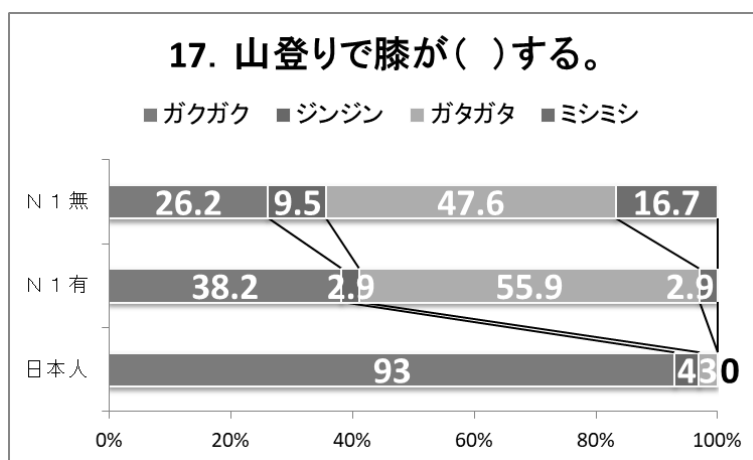


一方、グラフ 16 のように慢性胃炎の場合、学習者は習得レベルが上がると、「キリキリ」の選択率が下がり、「シクシク」と「ジンジン」の選択率が上がっている。ただ、筆者(日本語話者)の語感では、「ズキズキ」よりは「シクシク」や「ジンジン」の方が馴染むので、むしろ日本人被験者がなぜ二番目に「ズキズキ」を選択しているのかが気になるところである。



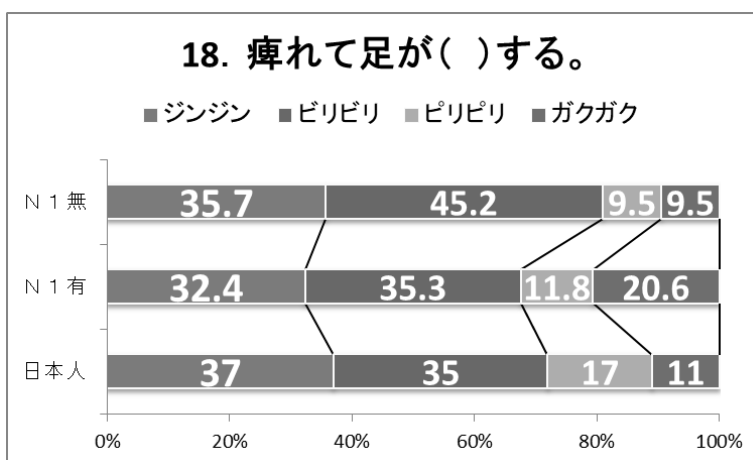
膝の場合

グラフ 17 を見ると、日本人は疲労による膝の脱力感を表すのに、「ガクガク」を選択する人が 93.0% と多い。一方、学習者も習得レベルが上がると「ガクガク」の選択率が 26.2% から 38.2% へと上がるが、N1 無も N1 有も「ガクガク」より「ガタガタ」の選択率の方が高くなっている。「ガクガク」と「ガタガタ」は発音が似ており、どちらも体や物の震えを表すオノマトペであるため、学習者には区別が付きにくいようである。



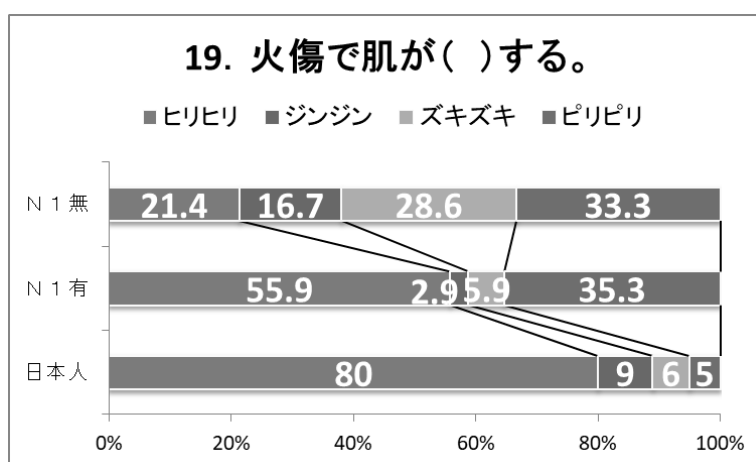
足の場合

グラフ 18 を見ると、日本人も N1 有も N1 無も足の痺れを表すのに、「ジンジン」または「ビリビリ」を選択する人が半々ぐらいである。これは学習者もイメージしやすいようである。

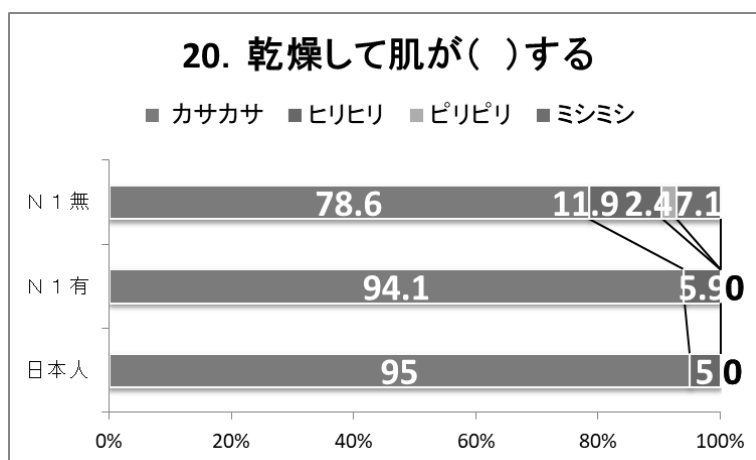


肌の場合

グラフ 19 を見ると、日本人はやけどによる肌の痛みを表すのに、「ヒリヒリ」を選択する人が 80.0% と多い。一方、N1 無では「ヒリヒリ」の選択率が 21.4% と低いが、N1 有では 55.9% と高くなる。ただし、N1 無も N1 有も「ピリピリ」を選択する人が 3 分の 1 ほどいる。先のグラフ 6 の唐辛子を食べた時の口の痛みでは、日本人も「ヒリヒリ」と「ピリピリ」の両方を選択している。両者は同じ肌感覚的な刺激であり、発音も似ているため、学習者には区別が付きにくいようである。



グラフ 20 を見ると、肌の乾燥した状態を表すのに、日本人も N1 有も N1 無もほとんどの人が「カサカサ」を選択している。これは学習者もイメージしやすいようである。



7. まとめ

以上、本稿では痛みを表す 20 の場面について、四者択一テストを利用して、日本人、N1 有、N1 無の選択率を比較した。これにより、全体的に習得レベルが上がると日本人の選択率に近くなることを見た。また、「好きな人を見て心臓がドキドキする」、「痺れて足がジンジン／ビリビリする」、「乾燥して肌がカサカサする」は N1 無の段階から日本人に近い選択率を示すことを明らかにした。その理由については今後の調査が必要である。

付記：本稿は 2019-2021 年度科学研究費基金(基盤研究(C))「心身のオノマトペの形態と意味の相関について—医療福祉分野への貢献を目指して—」(研究代表者: 吉永尚、課題番号 19K00725)による研究成果の一部である。

[参考文献]

- 小野正弘(編)(2007)『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』小学館
- 杉村泰(2017)「日本語のオノマトペ「ヒリヒリ、ヒリッ、ヒリリ」、「ビリビリ、ビリッ、ビリリ」、「ピリピリ、ピリッ、ピリリ」の記述的研究」『ことばの科学』第 31 号, 名古屋大学言語文化研究会, 111-130
- 杉村泰(2018a)「日本語のオノマトペ「チクチク」、「チクッ」、「チクリ」、「チクリチクリ」の記述的研究」『ことばの科学』第 32 号, 名古屋大学言語文化研究会, 5-23
- 杉村泰(2018b)「日本語のオノマトペ「キュン」、「キュンキュン」、「キューン」、「キュッ」、「キュッキュッ」の記述的研究」『ことばの科学』第 32 号, 名古屋大学言語文化研究会, 25-44
- 杉村泰(2019a)「日本語のオノマトペ「ガンガン」、「キリキリ」、「シクシク」、「ジンジン」、「ジーン」の記述的研究」『ことばの科学』第 33 号, 名古屋大学言語文化研究会, 5-24
- 杉村泰(2019b)「日本語のオノマトペ「ズキズキ」、「ズキン」、「ズキンズキン」の記述的研究」『ことばの科学』第 33 号, 名古屋大学言語文化研究会, 25-33
- 吉永 尚(2016)「心身の状況を表す擬態語動詞についての素性分析」『園田学園女子大学論文集』50, 21-28